

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

No. 1

岐阜県立土岐紅陵高等学校 学校番号 47

I 自己評価

- 1 学校教育目標
- ・生徒一人一人の良さや可能性を見つけ、伸ばす。
 - ・社会で求められる資質・品格を身に付けさせる。
 - ・地域社会に貢献する人材を育成する。

2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	昨年度の学校評価(保護者)の「学習指導」に係る項目のうち「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」の肯定的な評価が60%とやや低い。少人数授業の特色を生かし、授業中の個別指導の機会を増やす等の工夫をしていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	学力とコミュニケーション能力の向上を目指した教育活動を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)「学び方」や「学ぶ力」を身に付けさせるとともに、「学ぶ楽しさ」を感じさせることができるよう、「できなかったことができるようになった」場面をできる限り多く設ける等の授業改善に取り組む。 (2) コミュニケーション能力の向上を目指し、対話の場面を取り入れる等の授業改善に取り組む。 (3) ICTを活用した授業実践に取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①「できなかったことができるようになった」場面をできる限り多く設ける等の授業改善に取り組む。 ② コミュニケーション能力の向上を目指し、対話の場面を取り入れる等の授業改善に取り組む。 ③ ICTを活用した教育活動について、実践を通じて研究を進める。	① 学校評価の「学習指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。 ② 「対話の場面を取り入れる」等の工夫をした授業を、全ての教員が年に3回以上実施する。 ③ ICTを活用する授業を実践するための職員研修会を行い、研究授業を実施する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①教材を共有化したり、教え方の工夫等を教科会で交流したりした。 ②年2回の授業公開週間で他の教科の授業からもヒントを得て、授業改善を意識できた。またグループワークだけでなく、ディベートを取り入れた授業実践も見られた。 ③教室にプロジェクタが設置された11月以降、若い先生を中心に積極的に書画カメラ等を活用した授業が展開されている。	①わかる授業が実施されているか。 ②「主体的・対話的で深い学びの授業」が実施されているか。 ③ICTを活用する授業が実施されているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案 プロジェクタを使用することで板書にかかっていた時間を生徒の個別指導にまわすことができるため、ICTの積極的な活用等を通して個々の生徒に応じたよりきめ細かい授業を実践するとともに、実践の交流を活発に行いたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・妥当な評価である。また、授業は落ち着いており良好である。
- ・基礎基本の重視やコミュニケーション能力の向上を重点目標にしている学校の方針に共感できる。これらは、社会人として必要なものである。しっかり高校生の時期に身に付ける指導をしてほしい。
- ・今後も、義務教育範囲の基礎学力を分かりやすく指導したり、学習や社会への順応性について生徒の意欲を引き出したりする教育を行ってほしい。

I 自己評価

1 学校教育目標（略 No1参照）

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒対象の結果では、項目28「部活動が適切な管理体制のもとに活発に行われている」の肯定的評価が大きく下がり、否定的評価が増えている。1年次生の原則加入を中止したことによる影響があるのではないか。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇全校生徒が安全・安心に過ごせる学校を目指した生徒指導を推進します。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 関係機関や外部職員との緊密な関係と情報共有 (2) 機を逃さず適切な生徒指導が行える組織的対応を実践する。 (3) 予防的な教育活動に積極的に取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭や地域とも積極的に連携しながら指導します。 ②適切な生徒理解に努めるとともに、個別支援の視点を積極的に取り入れ、個々の状況に応じた指導を行います。 ③様々な人権侵害行為（SNS等）やいじめの未然防止と危機回避及び危機管理能力を育てる指導を行います。 ④あらゆる機会において、自主性・積極性・協調性を養うとともに、規範意識を養い、公共心・道徳心を育てることを意識した指導を行います。	①学校評価における「生徒指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①月に1回の遅刻指導と身だしなみ確認の実施 ②スクールカウンセラーによる個別懇談(19回)、スペシャリストサポート事業活用による個別懇談(7回)、担任による全校生徒教育相談(2回) ③全校集会でいじめ、命、安全・安心に関する講話を実施(6回) ④職員対象のいじめ・教育相談研修をそれぞれ1回実施 ⑤SNSスマホ教室を実施(外部指導者1回 本校職員1回) ⑥生徒による交通安全啓発活動発表の実施 ⑦全校統一人権LHRの実施 ⑧薬物乱用防止講話の実施 ⑨迷惑調査(いじめアンケート)の実施(2回) ⑩「命の大切さを考える」講話の実施	①単発的な指導で終わらず、指導後に改善が見られる。 ②生徒への迷惑調査から挙げた事案に適切に対応できる。 ③学校評価における「生徒指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○全校統一人権LHRの実施は、生徒同士が意見を交流する活動であったため、主体的で深い学びとなった考えられる。次年度以降も継続して生徒が主体的に学べるような取り組みを実施していきたい。 ▲様々な事情を抱える生徒が増加する中、スクールカウンセラーに相談を希望する生徒が増加している。教育相談体制の充実を図りたい。	
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 保護者とともに生徒を育てる視点を大切にして、連携をさらに深めるためにも情報発信を効果的に行う。 (2) 教職員の教育相談やいじめ対応に関するスキルアップを積極的に行う。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】 ○教育相談体制に関して 発達に障がいがあるような生徒や何らかのストレスを抱えている生徒も多いと思われる。担任や教育相談担当者との面談、心理検査結果、迷惑考査結果、普段から生徒とのコミュニケーション等から、そういった情報を早期に的確に把握していくことが、個に応じた指導につながっていく。
--

I 自己評価

1 学校教育目標（略 No1参照）

2 評価する領域・分野	◇進路支援部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	本年度から保護者、生徒とともに全数調査に調査方法が変更された。「適切なアドバイスをしてくれる」と「具体的な進路指導が行われている」と肯定的な評価をしていただいているが、パーセンテージが下がっている。今後は更に生徒個々に応じ、丁寧な進路支援にあたっていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の生き方・在り方指導を中心として、生活や人生を考え、生徒が誇りある選択ができる能力や態度を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	（1）進路意識の高揚及びキャリア教育の充実を図る。 （2）進路支援・情報の積極的な発信に努め、全職員による指導体制の確立を目指す。 （3）進路実現のため、自身の未来を自らの力で切り開く姿勢を育む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①職場体験学習や各種ガイダンス、進路講演会を通して、自己の適性を見出したり、将来の職業について考えたりすることで、キャリア形成ができるよう支援していく。 ②活性化推進部や学年会と連携を図り、働くことの意義を理解させ、社会人基礎力を向上させる。 ③「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の授業を通して、キャリア教育の充実を図る。就職、進学とも希望する進路を本人が主体的に選択できるような適切なサポートを実践していく。	①感想とアンケート、職場体験学習ノートの結果より達成度を判断する。ガイダンス後に働くことの意義や厳しさを学ぶことができ、継続して勤務できる心構えと目標が設定できたか。 ②職場体験学習やキャリア形成に関する行事において、その目標を達成できたか。働くことの意義を理解して将来のキャリアプランを醸成されつつあるか。 ③「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」・「課題解決学習」などの学習活動を通して、コミュニケーション力が向上できたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①職場体験学習や進路講演会、各種進路ガイダンス等、キャリア形成に関する行事を実施した。 ②3年次生の就職希望者に対して「マナー講座」や学年全体で「着こなし講座」などを実施した。「租税教室」も実施し、税に関することも学習した。 ③職場体験学習と課題解決学習では、自身が経験したことや研究したことをまとめて発表やプレゼンテーションをした。	①各行事に参加や受講した後に、刺激や感銘を受けて、自分の将来について主体的に考えることができたか。 ②働く意義を見出すことができたか。前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を養えたか。 ③発表やプレゼンテーションがしっかりとできたか。活動を通して他者と協力して取組めたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○活性化推進部や学年会と連携を図り、キャリア形成に関する行事を実施することができた。生徒においても卒業後の進路や将来の職業について考えることができたと感じている。 ○3年生の進路決定が、早期に決定することができた。常駐の「地域創生プランナー」の存在も大きく、生徒も自信を持って入社試験に臨むことができた。 ▲進学に関して、四年制大学、看護専門学校への進学サポートがうまくできない現状である。	
12 来年度に向けての改善方策案	(1) 進学希望者に対して、学校選びのアドバイスを実施する。進学補習の充実を図り実践していく。 (2) 本年度はキャリア形成に関することが、活性化推進部に移管された。学年会を含めて連携をうまく取りながら、生徒の進路実現のサポートに努めていく。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】

・進学、就職とも適切な進路指導をしてみえるようです。今後も指導体制を整え、生徒の夢や希望が叶えられるようサポートに努めてください。また、親身に対応することで保護者からも信頼を得られるように取り組んでいただくことを望みます。